

祝 技能検定 2 級合格



技能検定前期試験に生産機械技術科の学生2名が挑戦し、両者とも見事、合格しました。校内で表彰式を行い、健闘を称えました。技能検定とは生産現場で必要とされる技能と技術の習熟度を評価する国家検定制度です。試験に合格すると技能士を称することができます。技術立国の日本において、生産現場での技能伝承が課題となっています。その中で、個々の技能向上に繋がるこの検定は、注目されています。

技能検定 2 級

【機械加工職種（旋盤盤作業）】合格
友竹海誠さん(高知工業高等学校出身)

友竹さんは、在校中に技能の幅を広げるために、技能検定を受検しました。高校で普通旋盤作業3級に合格しており、当校に進学後は2級の合格を目指し、1年生の時から練習を重ね、20セット以上製作しました。



製作物を1つ作り上げるごとに、課題点を検討し、次の目標を立て、練習に取り組みました。特に苦手であった「内径の精度を高める」ことに時間がかかりましたが、クリアしていきました。

友竹さんは当校の専門課程「生産機械技術科」を修了後は四国職業能力開発大学の応用課程「生産機械システム技術科」に進学します。応用課程進学後も、より高い級や他の職種の技能検定への挑戦を続け、自身の知識・技術・技能を高めていきたいとのこと。



技能検定2級
**【機械加工職種（旋盤盤作業）】 &
 【機械加工職種（フライス盤作業）】合格**
 並川風さん(高知工業高等学校出身)

並川さんも友竹さんと同様で、高校時に普通旋盤3級に合格しています。当校の1年次に早くも普通旋盤2級に合格し、2年次では他の検定合格を目標とし、「有言実行！」で見事、フライス盤作業2級にも合格しました。

「普通旋盤とフライス盤作業のどちらが難しかったか」と聞くと、フライス盤とのことでした。一つの部分に集中し、時間をかけすぎると、他の部分が乱れてしまうため、製作物全体の精度を高めることに注力したそうです。

上の写真は金属ブロックに溝加工を行っている様子です。右の写真は溝加工前のケガキ作業（下書き線を描く）の様子です。このケガキ作業も重要で、作業時間や出来栄を左右します。器具の目盛を慎重に合わせています。

筆者が見学中、1セットの製作物を作り上げ、今日の練習は終了かと思っていると、すぐに2セット目の加工を開始しました。

この熱心な取り組みが、試験当日の落ち着いた作業に繋がったと、感心しました。

並川さんは、このような積極的な行動力などが高く評価され、高知県内の工作機械メーカーへの採用が内定し、当校修了まで、更なる技能向上に励んでいます。



当校では、ものづくり分野で活躍する実践技術者を養成するための教育訓練を行っています。

生産機械技術科では、1年次から技能検定合格に向けたサポートも行っています。学生の経験に応じて、各職種の技能検定、3級、2級のスキルアップに取り組んでいます。